

## 技術検討分科会における主な議論

### 1 分科会において概ね合意が得られた事項

- ・ 技術開発の方向を検討する場合、タイムスケジュールが重要であることから、時間軸毎に方向性を示すこととする。
- ・ 目標分科会での議論も踏まえ、特に短期的には国内のバイオマス利用の観点から方向性を示す。また、中・長期的には、国内・国外に限らず、バイオマス利用の高度化の観点から方向性を示す。
- ・ 技術開発の方向性を示す際は、個別の技術の詳細について記述するのではなく、技術区分毎のコアになる事項の大まかな方向性について記述する。  
(最先端の技術は日々変化しており、個別技術について記載することは不適切。)

〔例：○ セルロースの糖化技術の高度化  
× 効率的なセルロース分解酵素の選抜〕

- ・ システムの中でボトルネックになっている技術課題を整理しながら、優先的に解決すべき課題について重点的に記述する。

## 2 その他委員から出された論点

- ・ バイオマスと化石資源の利用しやすさについて、一般論で比較するのはどうか。利用しやすいバイオマス資源もあればオイルサンドのように利用しにくい化石資源もあるはず。
- ・ 目標を設定する場合は、個別技術で考えるのではなく、政策目標と連動して設定すべきではないか。
- ・ 現在、うまく利用されているバイオマスは特殊な条件がある。この特殊条件の低ハードル化を図ることが必要ではないか。
- ・ 制度的な前提条件とセットで検討すべきではないか。
- ・ 海外との技術面での連携について検討すべきではないか。  
(アジアとの共同研究の枠組みの創設等)
- ・ 日本の技術の活用による海外からの調達も視野に入れるべきではないか。
- ・ 遺伝子組換の国民への理解増進の観点を検討すべき。